



建学の精神

Hands and hearts are trained to serve
both Man below and God above.
(手と心は、天にいます神と地上の人々に仕えるために鍛えられる)

この言葉は、1940年にS・ヒルバン宣教師によって作詞された校歌の一部で、「他者に仕える人間として生きる」ことが、啓明学院で学ぶことの目的として謳われています。

また初代院長ハランドの出身校であるスキャレット大学の建学の精神にも、以下のように謳われています。

The Business of Life is Service.
(人生の本分は人に仕えることです)
Consideration for Others.
(他者への思いやり)



関西学院 校章・マーク
新月が満月へと刻々と変化するように、学ぶ者すべてが日々進歩と成長の過程にあることを意味しています。また、月が太陽の光を受けて暗い夜を照らすように、神の恵みを受けて世の中を明るくしていきたいとの思いを表わしています。

学校法人 啓明学院

〒654-0131 兵庫県神戸市須磨区横尾9-5-1

TEL : 078-741-1501 FAX : 078-741-1512



創立

1886年(明治19)、30年以上にわたる中国での医療伝道を終えたアメリカ南メソジスト監督教会宣教師 ジェームス・W・ランバスとメアリー・I・ランバス夫妻は、息子のウォルター・R・ランバス夫妻の働きを助けるために、ともに来日しました。ジェームス・W・ランバスは南美以神戸教会(現・神戸栄光教会)の牧師に就任し、神戸を拠点に宣教と牧会に力を注ぎました。そして自宅を開放した読書館には、キリスト教を学び、英語の習得を志す多くの若者が集まるようになり、〈パルモア学院〉として建学されました。校名は、この読書館へ長年にわたって書物と100ドルの寄付を送り続けたアメリカ・ミズリー州のW・B・パルモアの志に感謝して命名されました。

男子校であったパルモア学院に1914年(大正3)初めての女子生徒が入学して以来、女子の入学希望者が殺到。このため南メソジスト監督教会伝道局婦人部へ、日本での女学校設立の働きかけが積極的になされるようになります。やがてこの計画は年会でも可決され、1923年(大正12)ついにC・G・ハランドを初代院長として、神戸中山手の地に〈パルモア学院女子部〉が実現したのです。

2年後の1925年(大正14)、〈パルモア女子英学院〉と名称を変更、名実ともに独立した学校となりました。しかし日本の軍国主義化が進む中、校名変更を余儀なくされ、1940年(昭和15)日本名の〈啓明女学院〉と改称しました。「啓明」とは明けの明星である金星を意味し、学院とここで学ぶ生徒一人ひとりが薄明の中に輝く星のように「この世の光(マタイ5:14)」なっていきたいとの願いが込められています。

1996年(平成8)ランバス父子にゆかりのある五つの学校(啓明・関西学院・聖和〈神戸女子神学校など三校が統合。現在は関西学院大学教育学部〉・パルモア・広島女学院)が「ランバス関係校」として姉妹校協定を結びました。

2001年(平成13)には関西学院との間に独自の協定を結び、翌年(平成14)、中学・高校・大学、10年一貫教育を行なう男女共学の〈啓明学院中学校〉が発足。2005年(平成17)法人名を〈啓明学院〉と改め、共学部と女子部からなる〈啓明学院高等学校〉がスタートしました。

創立の背景と歴史

J・W・ランバスと息子のW・R・ランバス父子によって1886年(明治19)に読書館として創設された初期のパルモア学院は定まった教室もなく、転々と居所を変えるといた不安定な存在でした。メソジスト教会の年会では毎年存続が問題にされ、一度は廃止の決定が下されましたが、J・W・ランバス夫人であるメアリーの熱意によって廃止は撤回され、学院の存続が保たれました。

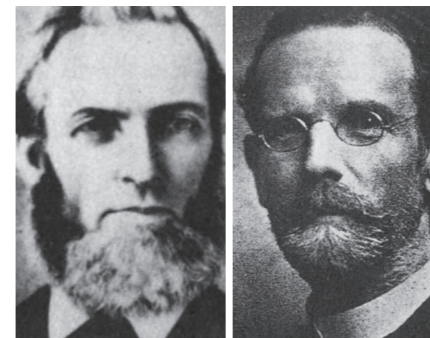
その後J・W・ランバスは広島女学院の創設に大きくかわり、W・R・ランバスは男子の学校として関西学院を創設しました。またメアリーは二人の活躍を支えながら、自らも神戸婦人伝道学校(のちのランバス女学院、聖和大学を経て2009年〈平成21〉関西学院大学と合併)の創設にかかわりました。メアリーはアメリカ南部の教会で、中国の窮状が訴えられたとき、「I give five dollars and myself」と誓いを立てました。同じ志を持つJ・W・ランバスと結ばれて、長く中国伝道に献身しました。また、息子のウォルターの働きを支えるため、夫妻で来日しています。

パルモア女子英学院は、女性の自立、働く女性の育成を大切に考え、英語教育や英文タイプを重視した教育がなされてきました。初代院長C・G・ハランドは外国伝道に携わる女性の宣教師を養成するテネシー州スキャレット大学に学び、宣教師として38年もの長きにわたり、日本で献身しました。

啓明女学院と校名が変更されたのち、日本の軍国化はさらに進み、ハランドのみならず、当時教鞭を執っていた外国人教師たちも次々と帰国していくこととなりました。また、学院の設立団体であったメソジスト教会も1940年(昭和15)に創立された教派合同の「日本キリスト教団」に所属することとなり、必然的に外国ミッションとの関係は断ち切られることとなってしまいました。

アメリカミッションの援助から独立することを余儀なくされたことで、啓明女学院の経営は多難を極めました。さらに1941年(昭和16)アメリカとの開戦に伴い、教職員・生徒らの生活も苦難を増していきました。とりわけ1945年(昭和20)3月16日の神戸空襲、6月5日の神戸大空襲による生徒、家族への被害は甚大でした。

戦時中の激しい空襲にもかかわらず、幸運にも戦災をまぬがれた学院は、戦後の学制改革により1948年(昭和23)、新制中学校、高等学校となり、新たな出発を始めました。生徒数の増加に伴い、これまでの中山手(北校舎)に加え、下山手にも南校舎を増設しました。創立60周年を迎える1983年(昭和58)には、三宮を離れ神戸市須磨区横尾へ移転を行ない現在に至ります。新校舎設計は一粒社ヴォーリス建築設計事務所により、旧校舎以来の面影を色濃く残すパニッシュスタイルのものとなりました。



左 創立者 James William Lambuth (1830~1892年)
息子のW・R・ランバスとともにパルモア学院を創設。
また、神戸栄光教会、広島女学院の設立など、西日本各地でキリスト教主義の学校や教会の設立に貢献しました。

右 Walter Russel Lambuth (1854~1921年)
父とともにパルモア学院の創設をはじめ幅広い伝道活動をしました。関西学院を創立。

下 Mary Isabella Lambuth (1832~1904年)
J・W・ランバス夫人。聖和大学(現・関西学院大学教育学部)の設立に貢献しました。

